

広島空港
ロータリークラブ
2025-26

2025-26年度 RI会長メッセージ

よいことの
ために
手を取りあおう



Weekly Report

Hiroshima Kuko Rotary Club

2025年12月17日発行



会 長 川本 吉則
副会長 三好 敏之
幹 事 佐々木正親
SAA 河井 一朗

事務局 三原市本郷南6丁目3-26 三原臨空商工会2F
T E L 0848-86-0986 F A X 0848-86-0992
E-mail h.kukorc@vega.ocn.ne.jp
例会場 広島エアポートホテル(TEL 0848-60-8111)

2710地区 土肥慎二郎ガバナー 信条

Enjoy Rotary～思いやりと奉仕の心で～

本日のプログラム(12月17日)

年 次 総 会

次のプログラム(12月20日)

クリスマス家族例会

第1355回 2025年12月10日 例会記録

点 鐘 川本会長
ロータリーソング「それでこそロータリー」

出 席 報 告

	会員数 シニア会員	出席者	メイク	欠席 (免除)	出席率
本日 (12/10)	27 3	18	2	5 2	80.00
メイク	重森・住田				

食 事 時 間



合鴨パストラミと彩り野菜のプチサラダ

サウザンドレッシング

カボチャのクリームスープ

サーモンとキノコのホイル包み焼き

自家製ポン酢ソース

バケット

コーヒー 又は 紅茶

会 長 ひ と 言



皆様こんにちは！

12/20にクリスマス例会が開催されますが、オープン例会として入会予定者の方の参加をお願いしております。

私が紹介させていただきます方は岡田光弘さん47歳です。

職業は古物商をされながらゲストハウスやカフェの経営もされています。

三原市の古民家再生のプロジェクトの講師なども務めておられ、ロータリークラブに相応しい方です。

つきましては、土肥ガバナーより先日お送りいただきました、オープン例会の成功の秘訣を少しご紹介させていただきます。

*事前準備

丁寧にご招待する。招待状などを用意しましょう。

ゲストのお名前・職業など事前に会員に周知しておきましょう。

紹介者だけに任せずに、全員で対応する準備をしておきましょう。

*当日の行動

笑顔で、にぎやかに迎え入れましょう。

当日の座席は、紹介者や入会3年未満の方と同席にしましょう。

場違いだと感じさせない工夫をしましょう。

オープン例会成功のために、皆様をお願い申し上げます。

一言だけでも良いので、会員の皆様からのお声かけをお願い致します。

入会候補者の方が楽しい例会だなと感じて頂くためにリラックスした雰囲気のお声かけをお願い致します。

必ず皆様全員でお願い致します。

本日は以上です。

ありがとうございました。

幹 事 報 告



【回覧】

- ・12月の例会出欠表
- ・東広島RC 例会予定
- ・2025-26年度 米山学友会賛助会員入会のお願い
- ・今年の漢字予想(まだの方は追記してください)
- ・2クラブ合同例会のご案内
- ・ロータリーの友・ガバナー月信
- ・2025-26年度 RYLA募集要項

卓 話 時 間

「三好印刷・小さい印刷屋の100年」



三好 敏之会員

1. 創業1912年、三原の小さな印刷所スタート

ロータリークラブが1905年からですからその7年後の明治45年7月に「三好和洋紙店印刷部」として創業したということになります。当時三原には東洋繊維(1922年)・日本セメント(1932年～2017年)・帝人(1934年)・三菱(1943年)の4つの大きな工場が操業しており当社もおかげで仕事には困らなかったようです。

2. 戦時中は「第12印刷集団第1工場」という肩書に

戦争が始まると、三好印刷も強制的に組み込まれて、「整備組合広島県第12印刷集団第1工場」という、肩書になり軍の印刷をしていたと考えられます。どちらにせよ戦時中も印刷の仕事は出来たようです。

3. 戦後の再出発は“ゼロから”

戦後の再出発は“ゼロから”でした。そして三原の復興とともに印刷の需要も戻り、少しずつ元氣を取り戻していきました。特に大きかったのは各会社の社内報が毎月発行されるようになったことです。先ほどの4つの工場や他の会社の社内報や三原市広報を当社は創刊号から請け負っていました。

4. 1975年、活版からオフセットへ！大きな転換

1975年、ここで大きな決断をします。創業以来60年以上続けた活版印刷をやめて、オフセット印刷に切り替えました。これがまた当時としては大きな投資でして…… 小さな会社がローン地獄で廃業にならないように祈りながらの設備投資だったと思います。でも、この決断のおかげで会社は次の時代に生き残ることができました。大量部数・高品質の印刷物に対応できるようになり、地域のお客様のニーズに応える幅が一気に広がりました。同時に、手作業中心だった活版印刷から、機械の精度とスピードが重要な時代になりました。職人たちも、新しい印刷技術を覚え直し、会社全体

で“技術の世代交代”が起きた時代です。

5. 1991年、尾道にデザイン事務所をつくりました

次に挑戦したのが1991年。「これからはデザインが大事!」ということで、デザイン会社を尾道で立ち上げました。当時のデザインは印刷のついでにやっている程度の物でしたが、これからは絶対にデザインが必要になると信じて赤字続きでギリギリの運営でしたが何とか維持しました。これが結果的に、三好印刷の生き残りの核になりました。

6. 2012年、東京にオフィスを作りました

そして2012年、東京にオフィスを作りました。地方の小さな印刷会社が東京に出るって、よく考えると結構な冒険で大変勇気がいりました。でもそれをしなくてはいけないほど仕事は減ってきていました。1990年代には日本セメント・東洋繊維の仕事はほぼなくなり、2000年に入ってから帝人も撤退の方向でした。三菱の仕事はありましたが、全盛期に比べるとかなり減っていました。特に社内報はほとんどなくなりました、現在残っているのは、労組の新年号と商工みはらくらいです。帝人・三菱への依存率が高かったため、ダメージは大きかったです。いまだに尾を引いています。尾道デザイン事務所・東京事務所のお陰で、息をつないでいる感じです。東京では地方では得られない刺激をたくさんもらい、会社の視野も広がりました。

7. 2024年、ついにオフセット印刷機を廃棄

長年会社の中心だったオフセット印刷機を全部廃棄しました。印刷機を捨てる印刷会社……一体何を考えているのと、冷静に言うのだいぶ勇気のいる行動です。職人の定年、機械のロートル化等どうにもならない状況ではありましたが、他にも

ちゃんと理由がありました。

○印刷物の部数は全国的に減少

○小ロット・短納期・多品種が主流

○機械の維持費・材料費、特に印刷用紙の高騰

○お客様のニーズが「早い・少ない・細かい」方向に変化

地域の中小企業や個人のお客様からは、「50部だけ欲しい」「明後日までに少しでも刷れないか」といったニーズが増えていました。こういう時代なので、オンデマンド印刷のほうが現実的になったからです。

8. 113年やってきても、変わらない“本業”はこれ

技術も設備も、働き方も全部変わりました。

活版 → オフセット → デジタルオンデマンド、もうジェットコースターみたいな変化です。でも、変わらないのは「情報を、ちゃんと、きれいに、伝える仕事」ということ。大量生産ではなく、“その人にとって必要な印刷を、丁寧に作る会社”になったと感じています。印刷は紙の仕事ですが、その本質は**「想いを形にして届けること」**。オンデマンドはその役割をさらに深めてくれました。媒体が紙でもデジタルでも、結局は“伝える”のが本業なんですね。

9. 最後に

113年続いてきたのは、本当に地域の皆さんのおかげです。ロータリーの皆さんにも、いろいろな形でお支えいただいています。時代が変われば会社の形も変わりますが、これからも「伝える仕事」で地域に貢献していきたいと思っています。

本日は、つまらない歴史のお話にお付き合いくださり、ありがとうございました！